

診療科紹介

整形外科

診療科長
馬渡 正明



佐賀大学整形外科教室の理念は、「思いやりのある効率的で質の高い医療を理念とし、そのための教育と研究を行う」としています。整形外科を受診する患者さんは、新生児から高齢者まで、そして対象疾患は上肢・下肢・脊椎と非常に多岐にわたります。本院整形外科は伝統的に股関節外科を中心としており、その診療の質・症例数ともに国内トップレベルにあると自負しています。平成22年に私が教授に就任してからは、股関節・椎間板ヘルニア・膝関節・手・足・スポーツ整形外科など、専門性の高い診療を行っています。また、ヘリコプターで搬送される救急患者の増加に伴い、重度外傷症例の治療も行っています。重度外傷に対しては、365日、24時間体制で緊急手術を行っています。

手術件数は毎年増加しており、平成24年は約1200例でした。そのため、現在月曜日から金曜日まで毎日が手術日となっています。手術後は、地域の整形外科医、リハビリテーション医との連携を密にとり、地域に密着した体制で診療を行っています。

基礎研究では、抗菌性を有する人工関節の素材の研究、3次元動作解析装置を使っての歩行解析など、教室の理念のもと臨床応用を見据えた研究を行っています。

整形外科手術のほとんどは機能再建外科ですので、より良い治療を行い、少しでも患者さんの生活の質が高まればと思っていました。決して大きな教室ではありませんが、教室員一丸となつて臨床・研究・教育に全力で取り組んでいます。今後ともよろしくお願いいたします。



院内画廊ガイドブックができました

病院長
宮崎 耕治



院内のプロムナードともいえる1階から3階までの南北の通路を美術館に見立て、外出できない入院患者さんに癒しのひとときをと絵画や工芸品を展示していましたが、作品も40点を超えて、ほぼ形が出来上がりましたので、ガイドブックを作成しました。どの作品がどこに展示され、その作家のプロフィールが分かるものです。

川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会選）

- 体病み入退院の絆あり
- 友達や皆んなの笑顔で元気付く
- 餅を食べ心身共に丸くなり
- わが家にも春がこいこい早く来い

中山トキ代さん
江口八重子さん
池田みち子さん
中山トキ代さん
東島 澄子さん

平成25年2月1日付けで、先進外傷治療学講座（寄附講座）の教授に就任しました尾山 純一です。1992年に九州大学を卒業後、同循環器内科に入局して以来、循環器疾患の治療と研究に携わってきました。

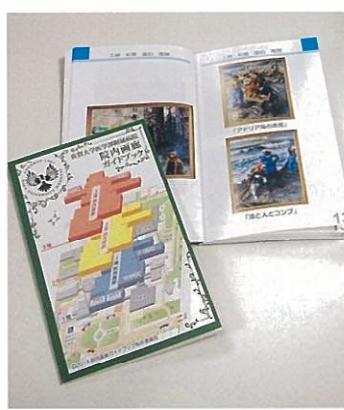
從来より冠動脈疾患の急性期治療の傍ら、研究においては慢性心不全の治療と病態生理の解明に努めまいりましたが、10年ほど前より研究及び診療の幅を広げ、睡眠時無呼吸



先進外傷治療学講座
教授
井上 聰

外科研修を佐賀医科大学（現 佐賀大学医学部）の一般・消化器外科でお世話になりました。東京都立駒込病院外科シニアアレジデント、東京慈恵会医科大学外科助手を経て、2007年より米国、ロサンゼルスにありますCedars-Sinai Medical Centerにて癌研究に携わっていました。昨年よりUCLAの外傷

入院患者さんは無料でお配りしますので、ブックを片手にご覧頂ければ幸いです。



文化コーナー

文化コーナー担当 南里悠介



第8回文化コーナーにもたくさんのご応募をいたしました。今回掲載されている優秀作品に選ばれた方々には、賞品としてカッチャーくんグッズを贈呈いたします。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。



「ひなまつり」院内学級の児童生徒による共同作品

M.Eセンター
臨床工学技士
市山 智義

M.Eセンター
臨床工学技士
田中 淳

M.Eセンター
技術員
野田 稔

先端心臓病学講座
教授
尾山 純一



精神医学講座
教授
門司 晃

就任挨拶



病との合併は多く、うつ病が認知症の危険因子であるとの報告も近年多くなっています。

従つて、合併するうつ病を正しく診断・治療することは、前述の四大疾患の予後改善にも寄与しますし、認知症の予防にも重要な要素となります。うつ病に限らず精神疾患治療には薬物療法と心理療法の二つの面からの治療アプローチが必要であり、更に、精神疾患を抱えて、社会で生きていく患者を支えるための社会資源の活用が必須です。従つて、心理職、ソーシャルワーカーを含むチーム医療が極めて重要と考えています。これから佐賀大学医学部附属病院精神科の発展に微力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成24年11月1日付けで、精神医学講座の教授に就任しました門司 晃です。本邦の医療法の医療計画上の重要疾病に精神疾患が平成25年度から位置づけられることとなり、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の四大疾患有、精神疾患を加えた五大疾患の時代となります。この政策変更の背景には、うつ病と認知症の患者数の増加や精神疾患がその背景にあることが推定される自殺者の増加があると考えられます。一方、従来の四大疾患とうつ

症候群の診断と治療や、慢性心不全における非薬物療法なども行なつてまいりました。今回本講座では、睡眠時無呼吸症候群や慢性心不全に対する非薬物療法、特に補助呼吸療法や遠隔モニタリングを用いた在宅診療と研究を行つてまいります。

睡眠時無呼吸症候群は特殊な病気ではなく、日本では全人口の4%と言われております。推計200万人の患者が存在と言われていますが、なかなか気がつきにくく、まだまだ治療を受けている方が少ないのが現状です。もし、そのような患者さんがおられましたら遠慮なくご相談下さい。

皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

外科チームに参加させていただいているました。

本邦の腫瘍外科のレベルは臨床も基礎研究も世界をリードするものであります。外傷外科の領域では、そのトレーニングシステムも含め欧米に学ぶ部分が多く残されている分野です。従来までは他科へのコンサルテーションにより対応しておりました外傷救急患者を救命センターで自己完結できる体制を目指して、このたび先進外傷治療学講座が設置されました。

佐賀県の救急医療をさらに発展させるためには、他科との連携はもちろんのこと、佐賀県庁や消防とタッグを組んでこれから努力して参る所存です。皆様のご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い致します。